



Le Vert
ル・ベール山の会

「六甲最高峰の歴史」講座を受講しました

「神戸登山研修所」で5/25 六甲最高峰の歴史についての講座を聴きました。市街地から離れた六甲最高峰は世の中の変化により魚屋道、一軒茶屋、楠公像、米軍無線中継所、仮の最高峰碑など150年間さまざまな影響を受けました。山の歴史を考えながら山歩きするのも楽しみです。

1. 現在の六甲最高峰

最高峰地点には「六甲最高峰の標柱 931.25m」とその東側に1等三角点がある。その手前には自衛隊の無線中継所がある。

最高峰直下には一軒茶屋がありその前を古道「魚屋道」が通っている。

2021年には最高峰直下にハイカーに配慮した立派なトイレ兼休憩スペースが新設された。

2. 昭和時代の歴史（平成4年まで最高峰の土地を米軍が接收と

戦前の楠木成像の建立と撤去）

① 1947年（昭和22年）に最高峰の地は米軍の通信基地として接收され

1992年（平成4年）に日本に返還された。

45年間、米軍に接收され鉄条網が設置され、日本人は最高峰の地に入ることができず写真撮影も許されなかった。

その間は、現在の最高峰より標高10m程度降りた所に日本スピンドル(株)登山部が昭和42年、仮の最高峰碑を建てた。

② 昭和10年に最高峰を心身鍛錬の場とするべく、須磨の井上邸にあった楠正成の銅像が移設・建立された。最高峰の楠公像にお参りするイベントがたびたび行われていたが、戦時中の昭和16年に金属供出のため台座のみ残して撤去された。

3. 大正時代の歴史（一軒茶屋の支店）

江戸時代から「一軒茶屋」があったが、大正時代の末に最高峰から魚屋道を有馬側に少し降りた所に一軒茶屋の支店（現在は廃止）が設けられた。

その背後には「不動明王」の祠（ほこら）が現在もある。

4. 明治時代の歴史（道筋と文人の紀行文）

① 明治7年に大阪～神戸間に鉄道が開通後は、住吉駅北側の有馬道商店街を通り住吉川沿いに北上し、本庄橋付近で魚屋道と合流する「住吉道」より有馬に行くのが一般的。紀行文を幸田露伴、田山花袋、大橋乙羽などの文人はこの道を通った紀行文を書いている。

② 明治7年以前の六甲越えは魚屋道（深江～甲南女子大～風吹岩～本条橋～最高峰）を歩いて有馬に行くのが一般的であった。